

2015年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 IR・広報室担当
北畠 一明

2015年2月3日

2015年3月期 第3四半期の決算概要につきまして説明いたします。

決算ハイライト

全社

- 薬価・公定価改定の影響を吸収し、増収増益を確保
- Q3は国内売上が増加

心臓血管

- 海外カテーテル・ニューロが継続して二桁伸長
- 国内はQ3にカテーテルを中心に伸長し、減収幅を縮小
- Ultimaster(新DES)は順調に拡大中

ホスピタル

- Q3は、DMヘルスケアやD&D(ドラッグ & デバイス)の売上増
- ポートフォリオミックスの改善により事業利益率が向上

血液

- 市場環境の更なる悪化に備え、コストコントロール強化
- 血液自動製剤システムやアフェレシス治療が海外で継続伸長



© Terumo Corporation

2015/2/3

2/23

決算のハイライトについてご説明します。

上期に続き薬価・公定価改定の影響を吸収し、増収増益を確保しました。
第3四半期は特に国内の売上が増加しました。

心臓血管カンパニーは、海外でカテーテル事業およびニューロ事業が二桁伸長となりました。アルチマスターも順調に売上が伸長しています。国内は第3四半期にカテーテルを中心に伸長し、上期に比べて減収幅が縮小しました。

ホスピタルカンパニーは、第3四半期に、収益性の高いDMヘルスケアやD&Dの売上が増加し、ポートフォリオミックスも改善した結果、事業利益率が向上しました。

血液システムカンパニーは、市場環境の更なる悪化に備え、コストコントロールを強化しています。海外での血液自動製剤システムやアフェレシス治療の売上は、上期に引き続き伸長しました。詳細については後ほどご説明致します。

増収増益

(億円)

	13年度 Q3累計	14年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	3,453	3,632	+5%	+1%
粗利益	1,787 (51.7%)	1,907 (52.5%)	+7%	+2%
一般管理費	1,080 (31.2%)	1,169 (32.1%)	+8%	
開発費	224 (6.5%)	209 (5.8%)	-7%	
営業利益	483 (14.0%)	529 (14.6%)	+10%	+5%
(のれん等償却除く)	604 (17.5%)	658 (18.1%)	+9%	+4%
経常利益	499 (14.5%)	587 (16.2%)	+18%	
純利益	369 (10.7%)	334 (9.2%)	-9%	

期中平均レート

US\$ 99円
EUR 132円

107円
140円



© Terumo Corporation

2015/2/3

3/23

決算概要について説明いたします。

売上高は前期比5%増の3,632億円となりました。

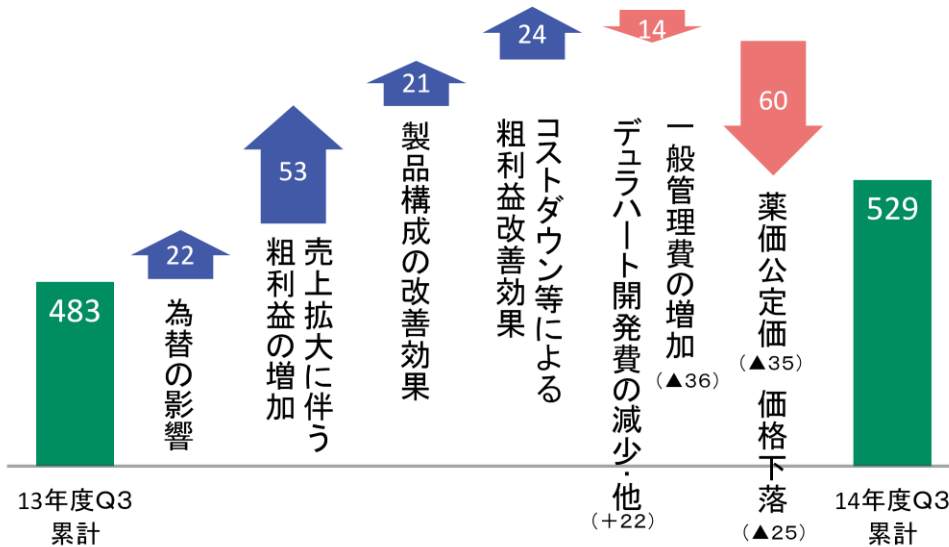
営業利益は、売上の伸びが寄与し、前期比10%増の529億円となりました。

経常利益は、第3四半期に円安が進み、為替差益81億円を計上した結果、前期比18%増の587億円となりました。

純利益は、334億円、前期比9%の減益となりました。当第3四半期は、欧州ホスピタル事業のポートフォリオ改革に伴う事業再編損64億円を計上する一方、前年同四半期は、受取和解金による特別利益60億円を計上しており、その結果、減益となりました。

営業利益増減分析

(億円)



このスライドは営業利益の増減を示しています。

最大のプラス要因は、売上拡大に伴う粗利益の増加です。上期に引き続き、製品構成の改善効果、コストダウン等による粗利益改善も寄与しました。

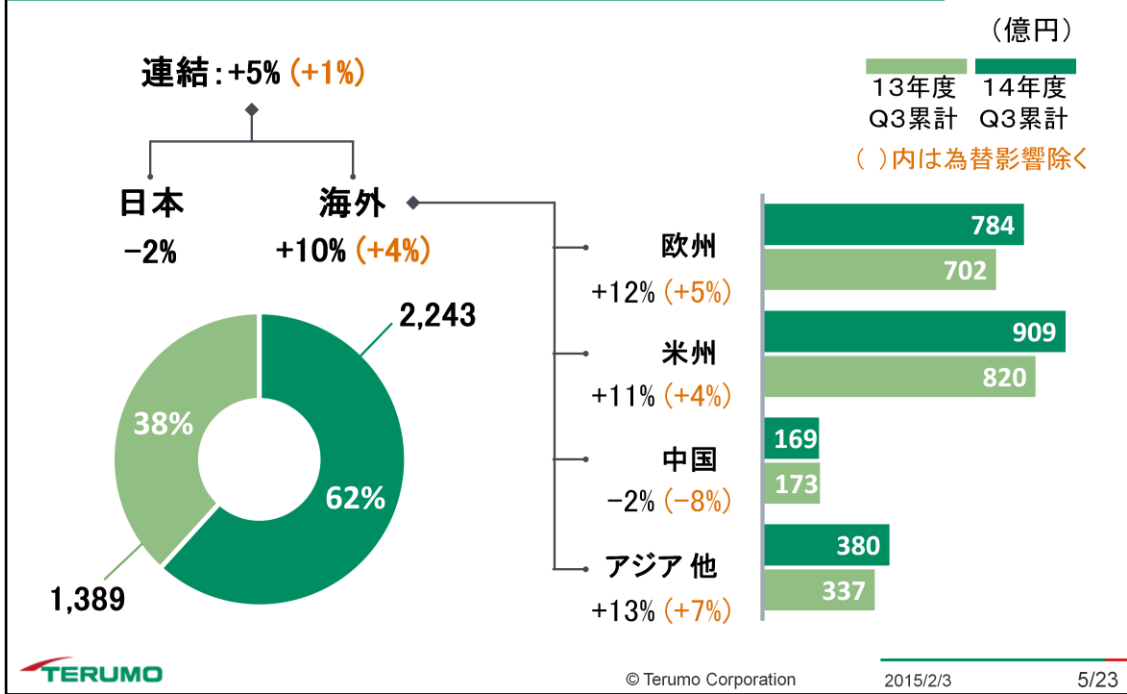
売上高は増加しましたが、薬価公定価改定の影響や価格低下によるマイナス要因があり、営業利益は529億円となりました。

一般管理費は36億円増加しました。欧米でカテーテル、ニューロの販売体制強化に向けて人員の採用を進め、第3四半期でほぼ計画通り進んでいます。その結果、人件費はほぼ計画通りとなりました。

一方、血液システムカンパニーでは、引き続き厳しい事業環境が見込まれるため、計画よりも人件費を抑制しています。

販促費は、上期は抑制傾向が続きましたが、第3四半期は、依然としてまだ弱いものの増加しました。第4四半期は、第3四半期からの期ずれに加えて、新たに使う費用も発生するため、増加する見込みです。

地域別売上高



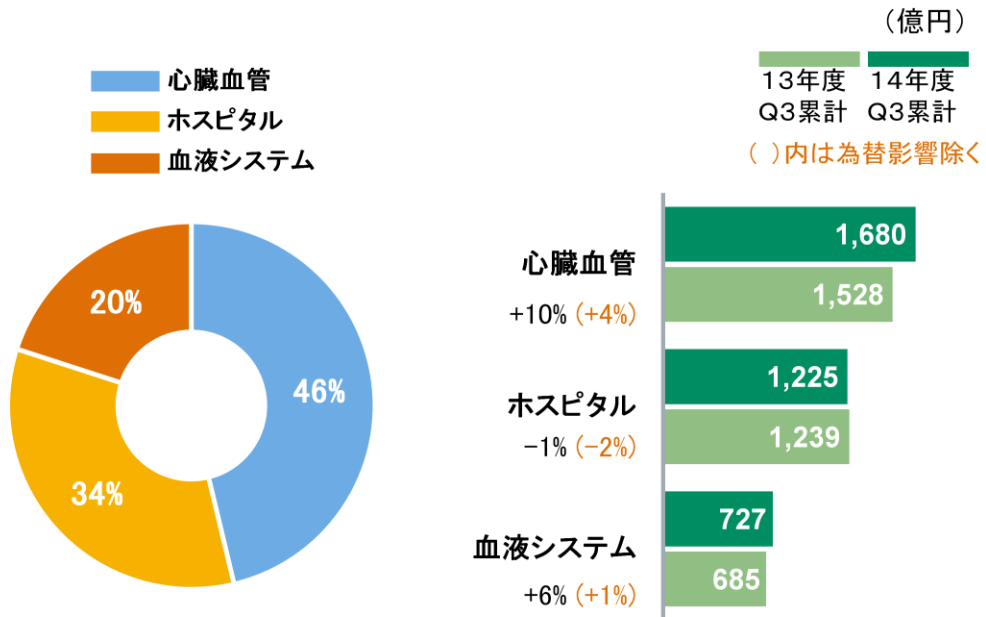
地域別の売上高です。

日本は前期比2%減、海外は10%増となりました。上期と比較して、日本は減収幅が縮小、海外は増収幅が拡大し、全体で増収となりました。

海外では、中国を除く、欧州、米州、アジア各地域で二桁伸長となりました。中国は前期比2%減となりました。代理店の再編が計画よりも長引いているため、今年度中は影響が残り、売上は弱い状況が続くと見えています。



カンパニー別売上高



© Terumo Corporation

2015/2/3

6/23

次はカンパニー別の売上高です。

上期と同様、心臓血管カンパニー、血液システムカンパニーが増収となりました。ホスピタルカンパニーは上期と同様に減収となりましたが、第3四半期単独の売上は前期比3%伸長し、上期比で減収幅が縮小しました。

カンパニー別事業利益

(億円)

		13年度 Q3累計	14年度 Q3累計	増減率	為替除く
事業利益	心臓血管	320 (21%)	341 (20%)	+6%	-3%
	ホスピタル	162 (13%)	165 (13%)	+2%	+1%
	血液システム	138 (20%)	142 (20%)	+3%	+1%
その他※		-16	10	-	-
営業利益 (のれん等償却除く)		604 (17%)	658 (18%)	+9%	+4%

※ その他：カンパニーに直接関連しない項目
13年度(デュラハート開発費等)、14年度(本社部門費削減効果等)



© Terumo Corporation

2015/2/3

7/23

カンパニー別の事業利益です。

上期と同様、心臓血管カンパニーと血液システムカンパニーは増益となりました。一方、ホスピタルカンパニーは、上期は減益でしたが、第3四半期累計では、前年同期比2%の増益、為替の影響を除いても1%の増益となりました。第3四半期にDMヘルスケア、D&Dの売上が伸びて、収益性が改善したことが主な要因です。

心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	13年度 Q3累計	14年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	1,528	1,680	+10%	+4%
事業利益(率)	320 (21%)	341 (20%)	+6%	-3%

<売上面>

- 海外カテーテルやニューロ製品(ステント等)の売上伸長 +125億
- 北米・アジアを中心にCV製品が伸長 + 25億
- 公定価改定の影響 ▲ 28億
- Ultimaster(新DES)は順調に拡大中

<利益面>

- IS事業を中心とした原価改善効果 + 9億



© Terumo Corporation

2015/2/3

8/23

各カンパニー別の状況をご説明致します。

心臓血管カンパニーは、上期とほぼ同様の状況です。海外カテーテル、ニューロを中心に売上が伸長し、公定価改定の影響を吸収して増収となりました。

薬剤溶出型冠動脈ステント「アルチマスター」は、欧州での販売開始後、アジアでも販売地域を拡大し、順調に売上が伸びています。アジアでは、国により登録に要する時間が異なり、マレーシアやベトナムでは登録が不要な一方、シンガポールやタイ、インドネシア、フィリピンは登録までに時間がかかりましたが、総じて売上は堅調に推移しています。

ホスピタルカンパニー: 高収益品が伸び、増益確保

(億円)

	13年度 Q3累計	14年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	1,239	1,225	-1%	-2%
事業利益(率)	162 (13%)	165 (13%)	+2%	+1%

<売上面>

- 国内: 上期の医療市場の環境変化の影響 ▲ 12億
- 薬価・公定価改定の影響 ▲ 7億
- Q3はDMヘルスケアとD&D(ドラッグ & デバイス)が増加 +15億

<利益面>

- ポートフォリオ・ミックスの改善



© Terumo Corporation

2015/2/3

9/23

ホスピタルカンパニーは、第1四半期は消費税増税の影響、第2四半期は病床機能区分の見直し等による環境変化の影響を受け、売上が弱い状況が続いていましたが、第3四半期単独では3%増と前年比プラスに転じました。DMヘルスケア、D&Dの売上の増加により、事業利益も増益となりました。

第3四半期は増収となりましたが、第1、第2四半期の反動による増加なのか、あるいは今後もこの回復基調が持続するのか、現時点では判断が難しい状況です。第4四半期の結果を見た上で判断する必要があると考えています。

血液システムカンパニー：増収増益を確保

(億円)

	13年度 Q3累計	14年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	685	727	+6%	+1%
事業利益(率)	138 (20%)	142 (20%)	+3%	+1%

<売上面>

- 中南米・アジアで全血・成分ともに伸長 +20億
- アフェレシス治療が海外で二桁伸長 +17億
- 血液自動製剤システムがグローバルで二桁伸長 +11億
- 欧米: 医療費削減を背景とした価格圧力の影響 ▲ 6億

<利益面>

- 売上状況に応じた収益マネジメントを実施



© Terumo Corporation

2015/2/3

10/23

血液システムカンパニーは、上期に引き続き、中南米、アフリカなどの新興国で全血および成分採血装置の売上が伸長しました。製品別では、上期と同様、主にアフェレシス治療や血液自動製剤システムの伸びが寄与しました。

2015年に入ってから、赤血球とは異なり、血小板への需要に変わりはありませんが、価格は下落しています。今後更に価格圧力が強まり、事業環境が厳しくなることが見込まれるため、人件費を中心に費用のコントロールを強化しています。

四半期の動き

(億円)

	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	14年度 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上高	1,192	1,221	1,149	1,184	1,299
粗利益	615(51.6%)	633(51.9%)	607 (52.8%)	623(52.6%)	678(52.2%)
販管費	437(36.7%)	463(37.9%)	446 (38.8%)	454(38.3%)	479(36.9%)
営業利益	178(14.9%)	170(14.0%)	161 (14.0%)	169(14.3%)	199(15.3%)

四半期	US\$	100円	103円	102円	104円	115円
平均レート	EUR	137円	141円	140円	138円	143円



© Terumo Corporation

2015/2/3

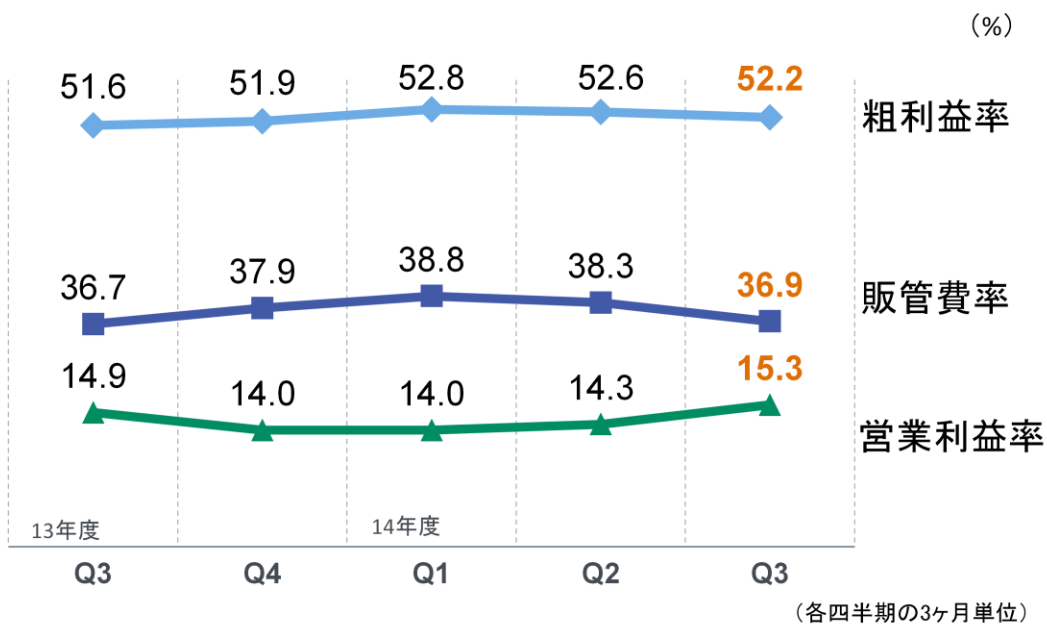
11/23

次に四半期の動きです。

当第3四半期の売上高は前年同期比9%の伸長、第2四半期比でも10%伸長し1,229億円となりました。

販管費は第2四半期比では増加していますが、売上の伸びがより大きいため、販管費率が下がり、営業利益率も改善しました。

粗利益率、販管費率、営業利益率



TERUMO

© Terumo Corporation

2015/2/3

12/23

四半期毎の粗利益率、販管費率、営業利益率です。

販管費率は、第2四半期の38.3%から第3四半期は36.9%へと下がりました。
その結果、営業利益率が15.3%へと改善しました。

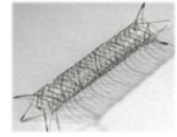
14年度下期 ローンチ予定の製品

領域	製品		地域	ローンチ
心臓	新PTCAバルーン	◎	欧・南米・亜	
ペリ フェラル	PTAバルーン(膝上)		日・米	
	PTAバルーン(膝下)		欧	済み
	ステント細径化(Misago)		欧	
脳	コイルアシスト・ステント	◎	米	済み
	脳梗塞治療デバイス	◎★	欧	済み
	液体塞栓剤(脳血管)	★	欧	
輸液 システム	閉鎖式輸液システム		亜	
DM	血糖測定システム (カラー液晶)	◎	日	済み
血液 システム	成分採血装置(血漿)		日	
	血液自動製剤システム	★	日	
	血液治療装置 (顆粒球・骨髄幹細胞)		米	



PTAバルーン・膝下
(Tercross)

高耐圧、高柔軟性の2タイプ、
操作性の高いシャフト



コイルアシスト・ステント
(LVIS)

高いデリバリー性と
簡単な血管内留置



脳梗塞治療デバイス
(ERIC)

★独自のケージ連結型で、
効率的な血栓除去を期待



血糖測定システム
(フィットスマイル)

音声ガイドと、
見やすいカラー液晶

◎ 業績貢献大

★ イノベーション度高



© Terumo Corporation

2015/2/3

13/23

最後に2014年度下期ローンチ予定の製品です。

膝下向けのPTAバルーン、脳血管用のコイルアシスト・ステント、脳梗塞治療デバイス、カラー液晶の血糖測定システムをローンチしました。

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率(Q3累計)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	360 (-2%)	1,320 (6%)	488 (6%)	548 (9%)	129 (-12%)	155 (15%)	1,680 (4%)
うちカテーテル※	276 (-3%)	998 (7%)	388 (8%)	369 (13%)	121 (-12%)	119 (14%)	1,274 (5%)
ホスピタル	937 (-2%)	287 (-4%)	93 (2%)	60 (-16%)	11 (19%)	123 (-3%)	1,225 (-2%)
血液システム	92 (-5%)	635 (2%)	202 (3%)	302 (-1%)	29 (1%)	102 (10%)	727 (1%)
合計	1,389 (-2%)	2,243 (4%)	784 (5%)	909 (4%)	169 (-8%)	380 (7%)	3,632 (1%)

※ニューロバスキュラー事業含む

()内は為替影響除く対前年同期伸長率



© Terumo Corporation

2015/2/3

15/23

販管費

(億円)

	13年度 Q3累計	14年度 Q3累計	増減	増減率
人件費	472	521	+49	+10%
販促費	106	116	+10	+9%
物流費	81	82	+1	+1%
償却費	167	184	+17	+10%
その他	254	266	+12	+5%
一般管理費計	1,080 (31.2%)	1,169 (32.1%)	+89	+8%
研究開発費	224 (6.5%)	209 (5.8%)	-15	-7%
販管費合計	1,304 (37.7%)	1,378 (37.9%)	+74	+6%

()内は対売上高%

販管費

(億円)

	13年度 Q3累計※	14年度 Q3累計	増減	増減率
一般管理費計	1,133	1,169	+36	+3%
研究開発費	231	209	-22	-10%
販管費合計	1,364	1,378	+14	+1%

※為替の影響を除いた換算値

営業外・特別損益・法人税

(億円)

億円	13年度 Q3累計	14年度 Q3累計	
営業利益	483	529	
営業外損益	+17	+58	為替差益 +81
	<small>為替レート</small> <small>米ドル</small> 3月末 102.9 <small>ユーロ</small> 141.7	<small>12月末</small> 120.6 <small>差異</small> (+17.7) (+4.8)	
特別損益	+46	-64	欧ポートフォリオ再編 -64 減損会計 -15 その他 +15
法人税等合計	-176	-189	FY12TBCT再編に伴う 影響がなくなった
法人税等負担率	32%	36%	
純利益	369	334	

設備投資と研究開発費

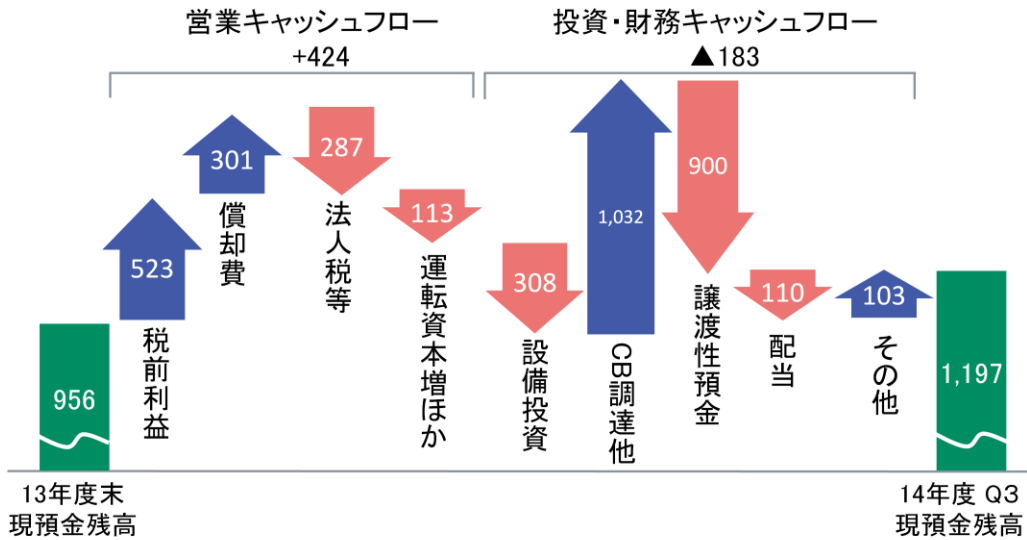
(億円)

	14年度見通し	Q3累計 実績	進捗率
設備投資	420	308	73%
償却費※	410	301	73%
研究開発費	310	209	67%

※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

キャッシュフロー

- CB1,000億円調達、900億円短期資金運用
 - Q1、Q3の法人税負担あるが営業キャッシュフローは順調に回復
 - 2015年3月にSB400億円償還予定
- (億円)



TERUMO

© Terumo Corporation

2015/2/3

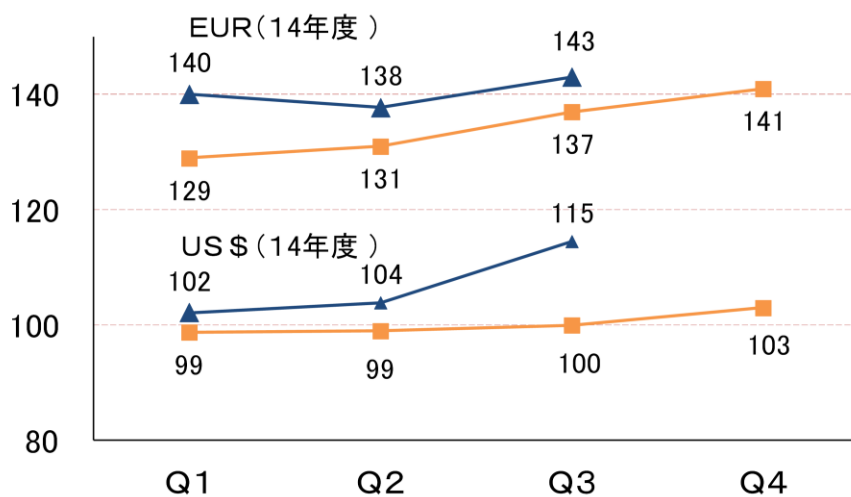
20/23

為替感応度

(億円)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レート推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。